

学術フォーラム「リスク認知と教育」

2022年5月7日

15:25-15:50

リスクの理解と限定合理性

中谷内一也

同志社大学 心理学部

1

リスク概念による安全管理の特徴

リスク評価を基盤とする

- ・ 定量的評価
- ・ トレードオフ評価
 - リスク - ベネフィット
 - リスク - リスク

これらを遂行するには；

専門知識・技術、労力(認知負荷)・・・が必要

一般の人々には困難 → 専門家の仕事

2

では、リスク評価部分を専門家が行い、情報開示し、
「あとは市民、消費者にお任せ」が望ましいのか？

自己責任論 ←■ → パターナリズム

この問題を考えるときには；

「人は限定合理性のもとでリスク認知する」

ことを承知しておく必要あり。

3

人々のリスク認知

限定合理性

世界は複雑だが、人の情報処理能力は限定的であり、そのために
世界を単純化して、低い負荷で理解しようとする(Simon,1956)」

二重過程理論 →システム1の優先性

| システム1(経験的システム) | システム2(分析的システム) |
|--------------------------|----------------------------|
| 感覚的 | 分析的 |
| 感情を基盤 | 論理を基盤 |
| 素早く・ラクに・直感で判断 | 時間をかけ・頭を使って・理屈で判断 |
| 直截的な反応 | 慎重な反応 |
| 具体的な映像・画像、 個別事例で現実を理解 | 抽象的な数値や統計量、 一般性により現実を理解 |

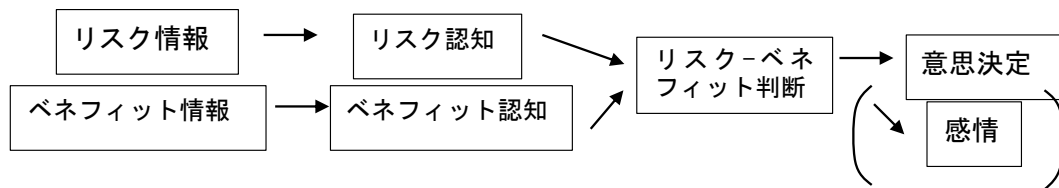
Slovic(2007)に基づき演者作成

4

リスク認知を説明するモデル

感情ヒューリスティック → 善玉・悪玉思考

規範的なリスク認知プロセス

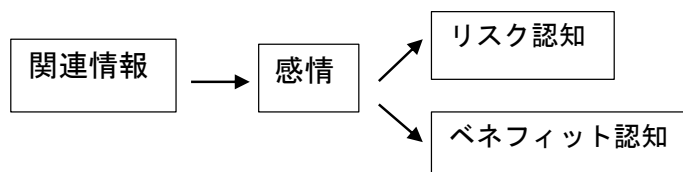


5

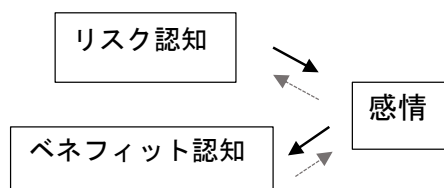
リスク認知を説明するモデル

感情ヒューリスティック → 善玉・悪玉思考

感情ヒューリスティックによるリスク認知プロセス (Finucaneら, 2000)



あるいは ;



6

リスク認知を説明するモデル

天然の方が良いヒューリスティック

Natural-is-better heuristic (Siegrist & Hartmann, 2020)

ナチュラルチーズ vs プロセス（加工）チーズ

天然成分配合 vs 化学的合成成分添加

7

リスク認知を説明するモデル

Out of sight, out of mind (Fischhoffら, 1978)

毎日1箱喫煙する人が100人いるとして、そのうち何人くらいが肺がんで死亡するでしょう？

少し考えれば当然のことも、明示されないと判断に反映されない。

8

では、どうすれば良いのか？

二方面の対応策

- ・ リスク教育を推進し、知的判断力を向上させる
- ・ 限定合理性を前提として環境を整える
 - 最近メジャーなのはこちら

9

しかし、後天的に知力を伸ばすのがヒトの特徴

放置せず体系的にそれを高めるのが教育

→ 識字能力、計算能力

ヒトにはシステム2が備わっている



リスク教育を諦める必要はない

10

どのような教育方針をとるべきか？

- ・ リスク評価・リスク管理のキモをリテラシーとして身につける

(皆がリスク評価の専門家になる必要はない)

- ・ リスク評価の不確実性や限界を理解する
- ・ 直感的なリスク認知の弊害を学ぶ

→ リスク評価、直感的リスク認知の両方に制約や欠点があり、意義もある。